

科目	生活行動援助技術演習				
時間数	1単位 30時間	授業方法	講義、演習	授業時期	1年
講師名	③児玉理衣 ③池田麻希 ③藤田景子				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	入院中の対象の日常生活行動をイメージできる事例を作成。生活行動援助技術で学んだ援助技術を組み合わせて、援助場面(寝衣交換、洗髪、バイタルサイン測定等)を想定して、実践的な演習を行う。看護過程の学びを活かして、情報の整理・分析、計画、実施、評価できる。				
目標	<p>提示された共通事例において</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ活動を通して、自己の役割を全うするとともに、グループ間で協力し合うことができる (基礎看護学実習Ⅰまでに) 2. 対象の状況を考慮した援助を計画することができる 3. 対象の状況を考慮し、援助を実施することができる 4. 実施した援助を振り返ることができる 5. 振り返ったことを、次の援助の計画に繋げることができる (基礎看護学実習Ⅱまでに) 6. アセスメントしながら必要な援助を考えることができる 7. 対象の状況を考慮した、看護計画を立案することができる 8. 退場の状況を考慮し、看護を実施することができる 9. 実施した看護を SOAP で振り返ることができる 				
授業計画					
回	内容				
1	課題演習の進め方、事例演習1				
2・3	事例に基づいてアセスメント及び援助記録を作成				
4・5	技術演習及び、援助記録の追加・修正				
6・7	演示及び振り返り				
8	課題演習の進め方、事例演習2				
10	事例に基づいてアセスメント及び問題の明確化				
12	看護計画の立案				
13	技術演習及び、看護計画の追加・修正				
14・15	演示及び SOAP 法で記録、振り返り、まとめ				
15・16	3年生指導演習				
評価方法	その時間数の3分の2以上の出席者に限り受験資格を与える。 実技 25%、記録物提出状況及び援助記録内容 70%、相互評価 5% を総合して評価する。60点以上を及第点とする。				
教科書	基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ:医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第3版:医学書院、デジタル教材				